

2019年度の鉄鋼需要見通し

2018年12月18日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

2019年度の日本経済は、緩やかな成長を持続する見通し

- 2018年度の日本経済は、自然災害もあり一時的に鈍化を見せたものの、堅調な内外需要を背景に緩やかな景気拡大を辿っている。内需は、企業収益の回復に伴う設備投資のほか、人手不足に対応する省力化投資や東京オリンピック・パラリンピック関連需要もあり、堅調に推移している。また、外需も海外経済が総じて安定的に推移していることから増加基調を辿っている。
- 2019年度は、回復テンポは鈍化するものの、引き続き緩やかな成長基調を辿ると見られる。2019年10月の消費税引き上げの影響により、個人消費の一時的な落ち込みが予想される一方で、米中貿易摩擦や新興国経済減速等のリスクは引き続き存在するものの、海外経済が総じて堅調に推移するとの見通しから、外需は底堅く推移すると見られる。

2019年度の粗鋼生産は2018年度をやや上回る見通し

- 2018年度の鉄鋼内需は、前年並みの見通しである。建設業が前年の高水準の反動から土木、建築ともに前年割れとなる一方、製造業では微増を見込む。堅調な設備投資需要を背景に産業機械が増加。また、自動車は、下期からの新車効果により微増横這いで推移している。一方、日本の鉄鋼輸出は前年度を下回る見込み。この結果、2018年度の粗鋼生産は前年度並み程度の水準となる見込み。
- 2019年度の鉄鋼内需は、投資の一巡や消費増税もあって前年度比減少になるとみられる。建設業では、建築では貸家の減少が続くほか、非住宅が前年高水準の反動で減少する一方、土木は公共投資拡大等で増加が見込まれ、建築の減少幅を上回るとの想定から、建設全体では前年度比微増と見られる。製造業は、米中貿易摩擦の影響から、堅調であった産業機械にも陰りが見られるほか、最大のウェイトを占める自動車も消費増税等による需要減との見通しから、製造業全体では前年割れの見通し。
- 2019年の世界の鉄鋼需要は、worldsteel（世界鉄鋼協会）によると、前年比小幅な増加が見込まれており、日本からの鉄鋼輸出は、2018年度を上回ると見込まれる。一方、鉄鋼輸入は、2018年度並みの水準を想定している。
- この結果、2019年度の粗鋼生産は2018年度をやや上回る見通しである。但し、米中貿易摩擦や中国やASEAN等の新興国経済の動向に引き続き注視していく必要がある。

以上

